

静岡大学浜松合気道同好倶楽部 設立趣意書

日本古来の武道の技や精神は諸外国にも認められ、文化としても注目を集めております。柔道などはすでに、オリンピック競技にもなっております。その柔道に続いて注目され、普及しつつある武道が合気道です。合気道も日本古来の柔術から生まれ、今日の柔道、剣道にも共通する術理を持つ優れた武道です。

合気道では、一般に「形」と呼ばれる古来通りの稽古方法が採られています。「形」とは、お互いの意志を約束し、技を限定した上で行う稽古方法であり、その反復練習で技の理合を学び、技術の修得を図る稽古です。しかし、柔道でいう「乱取」、剣道の「地稽古」のように、お互いが自由な意志をもって攻防し合う稽古方法も必要ではないかという観点から、形稽古に加えて、お互いの自由意志による攻防練習、すなわち乱取稽古を行う団体もあります。それは形稽古のみでは、ややもすると独善的な技に陥ることを危惧するところから生まれました。

つまり、合気道界には形稽古だけではなく、剣道や柔道のように自由な意思で技の練習を図る団体もあるのです。我々はそのような稽古方法に賛同し、形稽古だけではなく、「乱取(試合)」を通してその技術を向上させる目的で同志を募りました。現在の静岡大学には大学公認の合気道部が存在しますが、このように稽古方法の違いから、別のサークルとして当倶楽部を発足設立するに至りました。

当倶楽部では、先に述べたような「形」と「乱取」という稽古方法により、合気道の技術修得を図っていききたいと考えております。また、技術の練磨はもとより、その歴史についても併せて学び、同時に礼儀作法など、日本古来の武道文化として、その教養を深め合う団体にしていききたいと考えております。

平成十四年四月

発起人

白井伯明

森田悟史